令和4年1月13日（木）

千代田区長
樋口 高顕 様

[redacted]

# 神田警察通りの道路整備工事の着工延期および工事内容の見直しに関する要望書

私たちは、神田地区に在住・在学中の大学生です。学生として神田のまちで過ごす中で、道路整備工事に伴い神田警察通り沿いの歴史あるイチョウ32本が伐採されることを知りました。明大通りや神田警察通りのⅠ期工事を含めたこれまでの経緯を踏まえ、住民の反対を受けながらも1月17日（月）から伐採が開始されるという現状に、大きな危機感と憤りを覚えています。

このまま工事を強行することは、区民および神田警察通りに関わる幅広い層の人たちからの意見が反映されておらず、かつ、自然環境を破壊する行為であるため、不適切だと考えます。

## ○道路整備工事にはイチョウ伐採は不要である

私たちや住民の方々は、「道路を整備すること」ではなく、「イチョウを伐採すること」に反対しています。令和元年12月に実施された住民アンケートの回答結果や住民説明会での区の担当者の説明を伺う限り、道路整備への賛成がイチョウの伐採への賛成と同一視されており、また、既存の歴史ある街路樹を32本も伐採するという行為の重みが認識されていないと感じました。

実際には、イチョウの木を伐採せずに歩道の整備工事をすることは可能なはずです。神田警察通りのⅠ期工事は議論の末、伐採を行わずに完了しています。イチョウを伐採せずに工事を行う方法を検討することが重要だと思います。

## ○少数の意見のみしか政策決定に反映されていない

1月8日（土）に行われた住民説明会の冒頭で、区の担当の方は「障害者や次世代の人のために今回の工事を行う」と仰っていました。しかし、説明会に参加した若者は数名しかおらず、同席していた韓国から国費留学中の高校生もその状況を疑問視していました。また、上述の住民アンケートは回収率が14.5%と低いだけでなく、対象とした地域も狭いため、近隣住民の意見すら反映されていません。

未来のために総合的・多角的に判断すると仰るのならば、住民はもちろん、神田警察通り周辺の学校に通う学生や障害を持つ方などの意見も聞くべきだと思います。

○伐採ありきの工事は「持続可能な開発」ではない

伐採ありきでの工事の計画の強行は、千代田区が目指す「持続可能な低炭素社会の実現」に反していると思います。千代田区は日本の中枢を担い、「環境モデル都市」として他の都市の手本となる存在です。口先だけのSDGsや環境配慮では、豊かな未来など訪れません。神田警察通り全体のまちづくりの目標として「つなぐまち神田」を掲げ、未来の人々の豊かさの実現を目指すのならば、歴史と人々の想いの詰まった豊かな街路樹を切るべきではないと考えます。

既存の健康な街路樹32本を強行して伐採するという行為は、千代田区にとって、そして私たちの未来にとって望ましいとは思えません。

地域に育まれた歴史や自然環境は、その地域にしかない魅力であり、財産だと思います。それらをなくすことは容易にできますが、なくなってしまったら一生戻ることはありません。

信頼も同様だと思います。周囲からの信頼を得ることはとても大変ですが、積み重ねた信頼を失うことは一瞬です。貴重な地域の財産を、その地域に関わる人の意見も聞かずに撤去するような「まちづくり」を進める行政を、信頼することはできません。

私たちは千代田区の歴史や文化、人々の想いを受け継ぎ、今後の千代田区を創っていきたいです。行政の皆様には、千代田区在住・在学・在勤している人に寄り添い、区政の刷新と改革を行っていただきたいと思います。

ご検討のほど、よろしくお願いいたします。